

【趣旨説明・導入】

指出（コーディネーター）：皆様、よろしくお願いいたします。第1分科会の第2部です。「二地域居住」と「関係人口」ということで、人口が減少していく社会の中で、地域の担い手をどう見つけるか。今、関係人口や二地域居住に注目が集まっている理由はそこにあると思います。本日は先進的な取り組みをされている江府町の白石町長、塩尻市の百瀬市長のお二人にお話をお聞きできればと思います。よろしくお願いいたします。

第1部から続けて聞いてくださっている方は何名くらいいらっしゃいますか？（会場挙手）ありがとうございます。それでは私のスライドは重複しますので、少しお話しする程度にとどめます。

今回のテーマである「二地域居住」ですが、実は私自身も神戸と東京の二拠点生活を4年間続けております。神戸の中学校に息子が入学することになったための「教育移住」です。積極的に神戸に住もうとしたわけではなく、その場所にご縁があったため、妻と息子は神戸に引っ越し、私は東京の会社と神戸の自宅を行き来する生活を続けています。最初は地縁も血縁もない神戸での暮らしに不安もありましたが、始めてみると様々な仲間ができ、地域のプロジェクトに参画する機会にも恵まれました。

そして、東京の自分と神戸の自分を比べた時に、少し違うことに気がつきました。神戸にいる時は家族の一員として暮らしており、「指出家のパパ」や「指出君のお父さん」と呼ばれます。一方、東京にいる時は「ソトコト編集長」であったり、サステナビリティについて語る専門家であったりと、肩書きが異なります。これが意外と心地良いのです。おそらく、現在東京などで暮らしていて、自分の好きな地域を見つけ、関係人口や二拠点居住者として関わっている皆さんも、私がこの4年間で感じている「もう一つの自分を持てた幸せ」に近いものを感じているのではないのでしょうか。ある場所で暮らし、ある場所で働く。それが今まで以上に自分自身や家族、社会との接点を広げてくれている。これが個人の視点から見た、二拠点居住や関係人口の楽しさであり、可能性なのかなと思います。私の話は導入として、このような考えを持つコーディネーターだと捉えていただければ幸いです。

それではここからは、まず白石町長から 10 分ほどのプレゼンテーションで、お取り組みをお聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【事例発表：鳥取県江府町】

白石（江府町長）： よろしくお願いいたします。改めまして、鳥取県江府町の白石と申します。先ほど指出さんが東京と神戸の二拠点とおっしゃっていましたが、私も大学時代は神戸でしたので、神戸はもう一つの故郷のように感じています。高市早苗さんが神戸大学経営学部のご出身ですが、私は法学部で 1 学年違いですので、面識は全くありませんが、ひょっとしたら同じ空間にいたのかもしれない。

私は 2013 年 4 月に鳥取県庁から副町長として江府町役場へ出向いたしました。当時は県職員の身分のままでした。そこで 3 年間副町長を務めた後に県を退職し、4 ヶ月後の町長選挙に立候補して当選しました。現在は 3 期目の 1 年 3 ヶ月が過ぎようとしているところです。

本日の事例発表は、江府町とはどんな町か、目指すべき方向性、二地域居住の促進地域、コミュニティパーク構想、そして今後の展望という流れでお話しします。江府町は鳥取県西部に位置し、役場は令和 3 年に建て替えましたが、町の中心からは若干外れた場所にあります。江府町は、全国でも人口が最少の県である鳥取県の中で、人口が一番少ない町です。令和 7 年 7 月末現在で 2,457 人、高齢化率は 50.72%です。写真では開けたように見えますが、実際は山に挟まれた平地の少ない場所であり、人口グラフを見ていただくと上の年代が膨らんでいる、典型的な過疎地域です。

産業については、「サントリー天然水 奥大山ブナの森工場」が 2008 年から稼働しています。それ以外にも、町が 1994 年から出資している第三セクター「江府町地域振興株式会社」があり、「水工場ヨーデル」を現在も運営しています。水が豊かで水で商売ができる町です。町民性も真面目なのですが、かつて年間 2 万人程度の利用があった町営スキー場が、地球温暖化による雪不足とスキー人口の減少により、現在は営業を休止しています。かつては「夏は農業、冬はスキー」で生計を立てていました

が、それが立ち行かなくなり、方向性を切り替えようとしています。現在は **SDGs** や脱炭素の流れもあり、「観光から環境へ」とシフトしているところです。

町の課題として、外部への閉鎖性、役場依存、自発的な取り組みの不足、新しいことへの抵抗感、集落維持の困難さ、コミュニティの縮小、担い手不足などが挙げられます。これはどの中山間地域でも抱えている問題だと思いますが、何とかしたいとずっと考えていました。このまま放っておけば、ボロボロの空き家が増えていくだけになってしまいます。

そうした中、町にポツポツと外からいろんな人が来られるようになりました。スライド左側の方は「元セールスマンの焙煎士」です。コーヒーの焙煎が趣味で、退職後に本格的にやりたいと考えた時、輸入した豆についた埃や泥を一度洗い流してから焙煎すると美味しいコーヒーができることに気づき、水の良い場所を探して奥大山を選んでくれました。住まいは鳥取県倉吉市ですが、江府町の空き校舎を作業場として使っておられます。隣の「桐村里紗」さんはお医者さんで、「プラネタリーヘルス（地球の環境と人間の健康を重ねて考える）」という考え方を提唱されています。メディアにも多数出演され、顔が売れている方です。その隣、「ハンター光島」こと光島宏美さんは、岡山県新庄村から来られました。本拠地は岡山ですが、倉本聰さんが主宰する「富良野自然塾」の7番目の分校として町が開校した「奥大山自然塾」のインストラクターを務めていただいています。最初は **SDGs** コーディネーターとして入られましたが、現在は「**K&S** 企画」を立ち上げ、インストラクターをしながら岡山との二拠点生活をされています。最後に「農事組合法人宮市」の松本良史さんは、もともと尼崎の方ですが、地域おこし協力隊として来られ、退任後も法人の役員として残っていただいた方です。

先ほど挙げた課題を、こうした新しい目を持った方々とうまく繋ぐことで打破したい。これを「人と人をつなぐ江府町モデルの二地域居住」として進めていきたいと考えています。佐渡市長は「島だからできる」とおっしゃいましたが、私は「小さな町だからこそできる」のではないかと考えております。

現在進めている「二地域居住促進地域」の一つ、「佐川地区」についてご説明します。江府インターチェンジから米子空港までは約 **80** 分、東京へのアクセスも良い場所

です。道の駅もあるこのエリアに、30年前にパチンコ店があったもののずっと空き地だった場所を町が買収しました。現在、そこには住宅、コンビニエンスストア、コインランドリー、そしてフレンチレストランなどを整備しました。住宅は完成後すぐに満室になりましたし、フレンチレストランは東京でビブグルマンを獲得したシェフが開業されたお店で、予約が取れないほどの人気店となり、賑わいの拠点になっています。さらに、その隣接地約 5,300 平方メートルを追加で買収し、「コミュニティパーク」を作ろうとしています。これは公園と保育園をハイブリッドな形で整備するもので、子供を中心にして地元の方も外の方も親しみを持って繋がる要素があると考えています。ここを形にすることで、外部への閉鎖性やコミュニティの縮小、人と人との分断を解消していきたいと考えています。このプロジェクトは若手メンバーが一生懸命考え、外部アドバイザーとして株式会社アザーワークスさんにも入っていただき練り上げました。江府インターの目の前ですので、ここを中心に町を発展させていきたいと考えています。

コミュニティパーク以外にも、廃校を活用したトラウトサーモンの陸上養殖や、もう一つの拠点地域である JR 江尾駅前の空き家を買取り本屋を復活させるプロジェクトなどが進んでいます。また、特産品の梨「新甘泉（しんかんせん）」を作っている公社で農業をしたい人を受け入れ、住んでいただく形も作ろうとしています。

最後になりますが、今ある「地域の人や素材」と「外の力」を借りて、さらに今回採択いただいた地方創生拠点整備交付金も活用しながら、町を発展させていきたいと思っています。江府町はこれからも「人と人をつなげてバッチリ」やりたいと思います。以上でございます。ありがとうございました。

指出：白石町長、ありがとうございました。心のこもったプレゼンテーションを拝聴しました。コミュニティパーク、楽しみです。それでは、百瀬市長、よろしくお願いいたします。

【事例発表：長野県塩尻市】

百瀬（塩尻市長）：改めまして、長野県塩尻市長の百瀬です。本日は事例発表の機会をいただきありがとうございます。まずは塩尻市についてです。日本の真ん中、長野県のそのまた真ん中に位置する自治体です。人口は**6万5千人**、全国約**800市**の中で**400番目**くらいと、人口規模も真ん中です。古くから交通の結節点であり、道路も鉄道も交わっています。また、セイコーエプソンの国内最大拠点があり、長野県下の製造品出荷額は県内第**1位**です。伝統的工芸品は木曾漆器、そして重要伝統的建造物群保存地区である宿場町「奈良井宿」という一番の観光地があります。市内にはワイナリーが**17社**あり、ワインの生産量も県内**1位**です。その特徴を表したのがスライド右下のロゴになっています。

塩尻市の二地域居住についてですが、全国初・長野県初となる「塩尻市特定居住促進計画」を令和**7年2月**に策定します。促進区域は**3地区**設定しています。一つ目は「大門地区（中心市街地）」です。なかなか賑わいが戻らず、活性化できない中心市街地となってきていますが、ここが市街化区域です。その他に「北小野地区」「檜川地区」の**2箇所**を設定しており、いずれも都市計画区域外になります。

特徴の**1つ目**は、入り口となる協働・共創（なりわい）の拠点が大門地区にあることです。ここにはシビック・イノベーション拠点「スナバ」があり、約**100名**の社会起業家コミュニティが形成されています。「作っては壊す、作っては壊す」の繰り返しから「スナバ」と名付けました。令和**5年**には「地域**DX**センター」を整備しており、市民交流センターなど公共施設が集まるエリアに、最近ではシェアハウスやゲストハウスを作る動きが出ています。また、このエリアではレベル**4**の自動運転バスの社会実装実験を行っています。

特徴の**2つ目**は、民間事業体との活動です。「**NPO 法人 MEGURU**」という団体があり、地域と一体となった人材確保・育成・定着を推進しています。「塩尻**Lab**」として、総務省の関係人口創出・拡大事業のモデル事業にも選出されています。これは政府の担い手を副業人材として募集し、課題解決をするもので、市役所に「**Chief X Officer (CXO)**」のような副業人材を置いているのが特徴です。**2020年**から**6年間**で**20件**以上のテーマに対し、**100名**以上の地域外人材が参加しています。「あなたの経

験と共感で、街はもっと面白くなる」、皆さんにそうしていただいているところです。

特徴の3つ目は、市街地から農村部への拡がりです。移住者や関係人口が、先ほど説明した大門地区を生業の拠点にしながら、新たに北小野や檜川といった農山村部で住まいやコミュニティを持つ動きにつながっています。「北小野地区」では、歴史的風致と住まいの拠点を生かし、二地域居住を促進しています。平成24年に若者定住促進住宅を整備した後、令和3年に空き家を活用したお試し住宅を整備しました。そこでお試しをしてから移住する人がいます。また、そうした移住者などが地域の魅力や資源を発掘する設計図、いわゆる「地域の教科書」を作っています。もう一つの「檜川地区」は、歴史的風致、木曾漆器、奈良井宿を生かした生業と住まいの拠点に、森林資源という要素を加え二地域居住を促進しています。貸別荘や古民家のお試し住宅を整備しています。また、令和4年度で廃校となった「旧檜川中学校」を、「木曾の山と都市をつなぐ森林ハブ拠点」として整備しています。国の第2世代交付金を活用し（6億円弱）、竹中工務店さんと組んで、木造高層建築に使う合板を生み出す工場や、サテライトオフィス、簡易宿泊などを備えた施設へと改修するプロジェクトを進めています。

二地域居住実践者からのインタビューを紹介します。塩尻市では、日本で初めて一般公道における運転席無人バス（レベル4）の運行を実証していますが、その基幹システムを使っているシステム会社の人々が、最初は二地域居住でしたが塩尻に移住しました。「塩尻の印象はなんといっても人。自動運転は地域に根ざすものなので受容性が重要だが、これほど自然に受け入れて共存している地域は他にない」と言っています。また、「スナバ」で活動している方も、「多様な面白い人が集まり、行政が柔軟で面白い」とおっしゃっています。東京と塩尻の二拠点生活でマイホームを購入し、東京の友人が訪れて塩尻の人とも交流する場になっているそうです。3人目はワイン関係です。塩尻市はワインの産地ですので、平成26年に「塩尻ワイン大学」を開講しました。これまでに60人の卒業生を輩出し、うち8名がワイナリーを開設、30名がブドウ栽培で就農しています。この方も「東京から特急1本で行け、駅から家や畑まで歩ける利便性が良い。自分自身が二拠点のモデルになれば地域に貢献できるかもしれない」とおっしゃっています。

私どもが二地域居住・関係人口で目指すものは、従来からの強み（歴史・自然）と、新たに磨いてきた独自の潜在力（スナバ・コア塩尻など）を融合させた、「多彩な暮らし、叶えるまち。一田園都市しおじりー」です。つながりを増やし共創を促すことで、暮らしの質や幸福度の向上、交流・関係人口の増加、定住人口の増加を狙っています。30年後も人や組織を惹きつける地域を作っていきたい。二地域居住は拠点だけでなく、人を惹きつけ、いかに育てていくかが大事だと感じています。第6次総合計画では、「多様な人との共創が一番のチカラ」「将来のありたい姿は幸福度の高いまち」「成功のカギはチャレンジとアクション」の3つを掲げています。何事にも果敢にチャレンジして推進していきたいと考えています。以上でございます。

指出： 百瀬市長、ありがとうございました。塩尻市の多彩な取り組みを聞いて感動しました。江府町も塩尻市も独自の取り組みがたくさんありますね。まずはお互いのプレゼンテーションをお聞きした感想を教えてくださいませんか。早速、白石町長からお願いします。

白石： 百瀬市長のお話を聞いて、塩尻市はいろんなことをやっておられるなと感じました。特に思ったのが「塩尻ワイン大学」です。実際に入られた方が、ブドウを作って終わりではなく、最後のワインを作って起業するところまでしっかりやられるんだなと思いました。また、廃校利用についても、第2世代交付金を使って、使われなくなった施設を有効活用し、大きなプロジェクトを動かしておられる点、さらに自動運転レベル4の実装など、すごいなと思いました。素晴らしいです。

指出： ありがとうございます。では百瀬市長、いかがですか。

百瀬： 白石町長のプレゼンの中で心に残ったのが、「小さな芽がポツポツと」そして「人と人をつなぐ」という言葉です。やはり小さなことをきちんとつないでいて、芽を大きく育てていくことは、二地域居住に限らず行政にとって大事なことだと思います。そうやって芽を育てていく中で、「陸上養殖」を目指していくというお話には驚きました。私どもも海なし県ですので、陸上養殖なんて考えたこともありませんでしたが、この取り組みの今後の伸びを期待しているところです。

【ディスカッション】

指出： ありがとうございます。第 1 部とは少し異なる質問もさせていただければと思います。まず、地域居住や関係人口に対してお二方が感じている手応えについて教えてください。

白石： 実は私、1 期目と 2 期目は無投票だったのですが、3 期目で初めて選挙になりました。私より 10 歳くらい上の、あまり何もされていない女性の方が出られたのですが、結構いいところまでいかれたんですね。私は結構いろんな新しいことをやっていたのですが、高齢化率 50%の町ですので、選挙に行く方も高齢者が多い。やっぱり新しく変わっていくことに対する抵抗感みたいなものはあったんじゃないかなと感じています。とはいえ、選挙で勝たせていただいたので、将来の町のことを考えると、そういったことをやっていかないと町はしぼんでいくと思ってさせていただいています。

指出： なるほど、新しいことへの抵抗感も含めての手応えですね。百瀬市長はいかがですか。

百瀬： 手応えと言いますと、数値的な面では 2024 年の人口社会増減はマイナス 40 人ですが、社会増ではあります。そこは大きな手応えですし、二地域居住ですと「人が人を呼ぶ」というのが目に見えます。今までいた市民の皆さんと、新たに入ってきた人たちがだんだん調和するのが上手になってきている、そういう手応えを感じております。

指出： だんだん慣れてくるプロセスも含めて広がっているんですね。次に、若者と女性を呼び込むために意識していることについてお聞かせください。秋田もそうですが、女性の流出が大きな課題です。

白石： うちの町には 40 の集落がありますが、区長さんは全部男性です。町議会議員も定数 9 人ですが、全部男性なんです。そういうところを変えていくためには、前に出て行こうとする女性の動きを盛り上げてあげることが大事なのかなと思っています。今日ご紹介したお二人（桐村さん、光島さん）もそうですが、ちょっと突飛など

ころがあるかもしれませんが、そういった方をぜひ盛り上げていきたいと思っています。

指出：ありがとうございます。百瀬市長はいかがですか。

百瀬：まずは「断らない」ということが非常に大事だと思っています。外から来る方はチャレンジingなことを考えていますが、自分のやりたいことをきちんと持っています。そこを一緒になって進めていきたい。先ほど紹介した北小野地区でも、移住してきた女性を中心に「地域の教科書」を作ってくれましたが、視点や発想が私どもにはないものを持っていますので、そこを大事にしていきたいなと思っています。

指出：結果的に女性や若い人たちが現れやすい状況になっているのでしょうか。

白石：そうですね、出始めています。今日紹介した以外にも、旦那さんの仕事の関係で大阪から来られた方が、自らクラウドファンディングをして空き施設でフラワーアレンジメントをしながらカフェを開店したり、実家のお寺に戻った娘さんがアイシングクッキーを作ったりと、特に若い女性が頑張っていて芽が出ているなど感じています。

百瀬：私どもの新しいゲストハウスも、行政の力を借りずにクラウドファンディングで資金調達をして進めています。お金の関係も自分たちで頑張ろうというところは、最近すごく感じるところです。

指出：それは大きいですね。次に、関係人口と二地域居住の KPI（評価指標）についてお聞きしたいのですが、どういう形だと議会や町の人も納得してくれる分かりやすい評価になるのでしょうか。

白石：これはなかなか難しいですね。単純な移住定住であれば数で済みますが。例えば、佐渡市長の話にもあった「保育園留学」などは分かりやすいと思います。私のところのコミュニティパークでも、「1週間預かってほしい、その間親は自然の中でパソコンを使って仕事をする」といった実績が見えてくるんじゃないかなと思ってしています。

指出：施設という視点で後ほどまたお聞きします。百瀬市長はいかがですか。

百瀬： KPI というのは非常に難しいと思っております。数値でどう現れるか分からないところがあります。例えば国勢調査でも、二地域居住の方がどちらで調査票を記入されているか把握できません。もし違う方で書いていればこちらの数値には乗ってきません。数値的な指標は難しいですが、私は「フィーリング」が大事だと思っています。市民の皆さんが二地域居住の方に対して、どれだけ心を広く持っていけるか、そこが大事だと思っています。

指出： 定量・定性両方踏まえると難しいですが、だんだん指標化されていくのかなと思います。さて、お二方のプレゼンで「場所」がキーワードになっていました。江府町のコミュニティパークや塩尻市の廃校活用など、二地域居住や関係人口にはやはり施設や場所が必要だと思われませんか？

白石： 私のところのコミュニティパークに関しては、町民性の閉鎖的なところを何とか解きほぐしたいと思っています。外から来られる方も地元の方も自然に交わる仕掛けが欲しい。今でも保育園で太鼓の披露などがあると、親もおじいさんおばあさんも近所の人もしばしば来て、みんな一緒になって楽しんでいます。そこに住んでいる人たちだけでなく、広くいろんな人がそこでざわざわとやっている、「混ぜる装置」みたいな形で使っていけたらなと考えています。

指出： 「混ぜる装置」、分かりやすいですね。百瀬市長はいかがですか。

百瀬： 場所は大切だと思います。今回工場を作りますので、そこで新たな雇用が生まれてきます。今、林業という世界を目指してくる方が一定数いますので、新しい合板の製造に関わってみたいという方を呼び寄せればいいと思います。すぐ裏山の木から使っていく計画を作っています。山も疲弊していますので、林業の再生につながっていけばいいのかなと思っています。

指出： 人が現れる場所、「関係案内所」として育っていくのかなと感じました。次に、歴史や技術の継承という視点で、関係人口や二地域居住の人たちがどう合流していったらいいか教えてください。

白石： 私どもの町には「江尾十七夜（えびじゅうしちや）」というお祭りがあります。戦国時代にこの地を治めていた蜂塚右衛門尉というお殿様がいましたが、毛利に

攻められた際、裏切ることはできないと抵抗して亡くなりました。領民はお殿様を偲んで、旧暦 8 月 17 日に踊っていたのが今も続いています。この 8 月 17 日という日は絶対変わりません。今でも踊っていますが、そこでは誰が踊ってもいいわけです。二地域居住で来られた方が、これを目指して来ていただいて、一緒になって踊ることで地域の方と一緒にになれるのかなと思います。

指出： 少しお話を先に聞いているのですが、二拠点で議員をされている方がいらっしゃるのか。珍しいことではないですか？

白石： 住所の主は江府町の方にあります。40 歳くらいの若い議員さんですが、お母さんが江府町のご出身で、12 年前にご両親が帰ってこられて生活されていました。そのご両親から江府町の話をお阪で聞いて、「このままでは江府町は大丈夫かな」ということで、自分が議員になってできることをやりたいと、この春の選挙に出られました。友達も同級生もいない、ご両親がおられるだけですが、自転車で選挙運動を回って、なんと 2 番目で当選しました。すごいなと思いました。

指出： 中長期的な関係性という意味では、政治の仕事もその一つですね。百瀬市長、伝統工芸などへの関わりについてはいかがでしょうか。

百瀬： 私どもは木曾漆器の産地です。技術の継承の面でも、これから二地域居住の方が出てきていただけるのかなと思っています。後継者不足については、ここ 3 年ほど地域おこし協力隊で取り組んで増やしていますが、また二地域の方が加わることを期待しています。お祭りについても、北小野地区の「御柱祭」や奈良井宿のお祭りがあります。このお祭りめがけて来る人がいて、一回出るとその地域に惚れちゃうという方が結構多いです。

指出： 塩尻市の政策について個別に聞きたいのですが、中心部から山間部への段階的な居住について、手応えはいかがですか。

百瀬： 中心部で拠点を構えた方が、住むのは農山村部を選ぶというスタイルが確立されています。移住者を分析するとやっぱり中心部の方が多いのですが、東京と塩尻の二地域もあれば、「塩尻の市街地」と「塩尻の田舎」の二地域もあるのかなと考え、並行して進めています。

指出： 地域内二拠点ですね。白石町長はいかがですか。

白石： 大いにありだと思います。特に雪が降ると、山の上で一人暮らしをしている高齢者の方は大変です。駅や診療所に近い麓の方に降りてきていただけるようなことができれば、本当に安心ですので、そういう意味でありだと思います。

指出： 両方が重なっていくと楽しい化学反応がありそうですね。次に、来年度から始まる「ふるさと住民登録制度」への期待について教えてください。

百瀬： 制度に期待をしております。登録してくれた人の求めるニーズと、私どもがうまくマッチングしていくかが大事だと思っております。本市に興味関心を持っていたく方が増えていけば、それだけ外からの活力につながりますので、大いに期待しています。

白石： 私も期待しています。私の個人的な考えで、数年前に「奥大山ファンクラブ」というのを作りました。入会金だけ（通常 1,000 円、VIP1 万円）で会費はなしです。特典は道の駅や地元の酒屋で少し安くなる程度ですが、VIP の 1 万円を払っていただいた人も多いです。コロナの時に会員の方に米と水をお送りしたら、これが本当に評判が良かったんです。今回、ふるさと住民登録制度ができれば、奥大山ファンクラブを吸収するような形でできるといいなと思いました。

指出： 子供たち、小学生や中学生が地域に興味を持つためにはどんなことをしたらいいでしょうか。

白石： 10 年くらい前から、中学 3 年生を対象に「中学生議会」をやっています。これを「アントレプレナーシップスクール（起業家教育）」とセットにして、自分たちの町のことを自分たちで考えて質問し、私が答えるというのをやってきました。実現したものもいくつかあります。若い人たちが「あの時に自分たちが提案してやったことだな」と思い出していただくと、またどこかで関係を持とうとか、帰ってくるきっかけになるかなと期待しています。

指出： 百瀬市長はいかがですか。

百瀬：小学生などが対象ですと学校が中心になりますので、コミュニティ・スクールに力を入れています。あと、「給食」ですね。食べることは大事ですので、自校給食で全校に栄養士がいて、その地域に合った献立を提供しています。そういったところが子供の心に残って、これからにつながっていくものと考えています。

指出：「ヤング関係人口」として、記憶の中に選び取られる地域になっていくといいですね。これから選ばれる市や町であり続けるためには、どういう考え方がいいでしょうか。

白石：まだまだ成功しておりませんが、こういう動きを続けていくためには、やはり職員の力がすごく大事だと思っています。若手職員をどう育てるか。出張機会を増やすなどうちもやっていますが、若い方は吸収が早くて変わっていくんですね。江府町しか知らない人たちではなくなり、外のことを吸収して帰ってきて町のことを考えてくれる。これができる限り町は継続していけるのかなと思っています。

指出：百瀬市長はいかがですか。

百瀬：選ばれていくためには、常に新しいものを楽しみにチャレンジしていかないといけないと思っています。税金を使っているのでも許されない失敗もありますが、その歩みを止めてしまうと人を惹きつける魅力はなくなってしまいます。時代の風や空気を読んで、新しいところに果敢に取り組んでいきたいと思っています。

【質疑応答】

指出：そろそろ質問の時間に入ります。オンラインの方も、会場の方もぜひご質問ください。

質問者：今日は白石町長が登壇されるということで鳥取から応援に駆けつけました。百瀬市長も応援しております。お話の中で、女性が選んでくれるような地域じゃないといけないという文脈があったと思います。白石町長からは集落自治会や議員が男性ばかりという話がありましたが、我々市町村長ができることとして、役場の女性管理職の割合を増やしていくことが効果が高いのではないかと考えています。お二方の自

治体の女性管理職割合と、もし低ければ増やす上での課題感、高ければどういう工夫をされているかお聞かせください。

白石：実は私どもの町は課の数をかなり減らしまして、昔 11 あったのが今 4 つしかなくて、なかなか管理職になれないのですが、一番筆頭の総務課長は女性がやっております。

百瀬：女性管理職の割合は 20% ちょっとあるのですが、まだまだ少ないと思っています。ただ、今の職員の年齢構造を見ると、30 代、40 代で女性がかかなり増えてきていますので、これからグッと割合は高まっていくと推察していますし、自分もそう進めていかなければならないと思っています。

質問者：課題に感じておられることがあればお願いします。

白石：私は女性だろうが男性だろうが適材適所だと思っていますので、なっってほしければお願いするだけですが、課題ということであれば、「女性だから」という既成概念を女性の方もなくしてほしいとは思っています。

百瀬：私も女性、男性という目で見ないで、適材適所で配置をしていく、その結果が女性であったり男性であったり、そういうことに尽きるのかなと思っています。

【結び】

指出：ありがとうございました。最後に私からも質問させていただきます。国土交通省の二地域居住促進法が走っていますが、移住や定住への変化は現れているでしょうか。

白石：一番大きなことは、プレス発表の資料などに名前が出たことです。これによって、知られていない江府町という町の名前が表に出た、これが一番大きな効果だと思っています。

百瀬：自治体の名前が出ることによる効果もありますし、そもそも「二地域居住」という言葉の社会的な認知度が高まり、受け入れやすさも高まったと思っています。

指出： もう一つ、二地域居住や関係人口を広げていく上での主たる課題があれば教えてください。

白石： 主たる課題は、やはり外から来られる方と地元の方との「あつれき」だと思います。具体的には、地元ならではのルールですね。草刈りの仕方が中途半端だと「何やってるんだ」と言われたり、ゴミの出し方一つでも、地元の人と同じ出し方をしているのにちょっと気に入らないと言われたり。そういうことが起きるので、何とかしたいなと思います。

百瀬： 全く今のご意見の通りで、地域の独自のルールが大きな障害を生んだりします。きちんと「地域の教科書」を作って可視化していくことが大事ななと思っており
ます。

指出： 大都市との連携についてはいかがでしょうか。

白石： 行政ではなく、今回ご紹介した桐村里紗さんのところ（株式会社天籟）が、プラネタリーヘルスを広めるために「田んぼ DAO」というのを始められました。丸の内の医師や看護師を中心に声をかけて、田植えや稲刈りに来てもらう。都会と田舎を繋ぐ意味もありますし、江府町に来て活動しないと手に入らない地域通貨（トークン）を設定して実証実験が始まりかけています。

百瀬： 大都市との連携というのは非常に弱いところです。ただ、東京にも 2 時間半、大阪にも 3 時間という地の利を生かした連携は大事にしています。

指出： それでは最後に、お二方からメッセージをお願いいたします。

白石： それぞれの町にそれぞれの特徴があります。地域に足りない力と、外から来られる人が感じる魅力をうまく繋いでいく。そうした取り組みが日本の中でどんどん広がっていけばいいなと思いました。

百瀬： 今回のサミットに参加して、二地域居住や関係人口について改めて勉強しました。これから日本のありようを考える中でも非常に大事なシステムだと思っており
ます。これを機に、自治体も皆さんも連携しながら、枠を超えて取り組んでいきたいな
と思っております。皆さん、一緒にチャレンジしましょう！

指出：お二方から温かいメッセージをいただきました。最後にまとめさせていただき
ます。二地域居住と関係人口は、移住政策よりも見えにくいものだと思います。で
も、その見えにくいものの中に新しいことが起きます。白石町長が言われた「小さな
人の芽」みたいなものが芽吹いていくのが社会の理だと感じています。そしてもう一
つ、私たちは「まちづくり」「むらづくり」ばかりに専心しすぎていて、「町をまも
る」「村をまもる」というところが2番手になってしまっているのではないかと思い
ます。0から1を生み出すことも大事ですが、一方で地域で一生懸命やっている先輩
世代は「来年のことが分からない」と言っています。「むらづくり」よりも「むらま
もり」。おそらく両方をやっていくことになるのではないかと思います。これはコロ
ナの時の「ハンマーとダンス」に近い感覚で、軽やかにまちづくりをしていくのと同
時に、泥臭い地元のことを守る「むらまもり」のために、二地域居住や関係人口を広
げていかれるといいのかなと改めて感じました。行政の皆様が、この二地域居住や関
係人口で、新しい経済や教育や福祉のあり方を広げていっていただけることを願っ
ています。それでは、改めまして白石町長、百瀬市長、ありがとうございました。皆
様、大きな温かい拍手をお願いいたします。